様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 １５ 日現在

機関番号：１３４０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３７２００７６

研究課題名（和文）中華民国期上海における演劇とジャーナリズムの相互連関について

研究課題名（英文）The Interrelation between theater and journalism in Shanghai during the Republic of China (1912-1949)

研究代表者
田村　容子（TAMURA, Yoko）

福井大学・教育地域科学部・准教授

研究者番号：１０４３４３５９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,800,000円、（間接経費）　840,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中華民国期の上海における演劇とジャーナリズムとの相互連関性について考察するものである。
研究成果として、論文「「孤島」時期上海跨劇種的互動關係―兩種《明末遺恨》及「改良」之口號」、「『順天時報』と劇評家辻聴花初探」を発表したほか、国内外において「二十世紀京劇的記憶与紀録」、「梅蘭芳訪日公演對日本戲劇人的影響：以福地信世為例」などの学術口頭発表を行い、1910年代から30年代にかけての、新聞･雑誌編集者の演劇への参与の実態を調査、分析した。

研究成果の概要（英文）：Findings of the research are below. First,a paper "'Shuntianshibao' and a dramatic critic SHI Tinghua" is published in March 2012.This paper shows how SHI Tinghua, an editor of newspapers and magazines, participated in the theatrical activities.
Secondly, presentations are made at two research conferences in Kobe and Beijing. "A memory and document of Peking Opera in the 20 century"and "The impact of MEI Lanfang for Japanese theatre: focusing on FUKUCHI Nobuyo" reported the influences of some reviews and sketches about Chinese dramas early 20 century in China and Japan.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：中国演劇　演劇学　中国文学　表象文化論

１．研究開始当初の背景

（1）国内外の研究動向

中華民国期上海の演劇とジャーナリズムの相互連関性については、重要な先行研究として、趙婷婷「『申報』京劇評論家的自我建構」（『京劇与現代中国社会―第三届京劇学国際学術研討会論文集（下）』文化芸術出版社、2010）、松浦恆雄「中国現代都市演劇における特刊の役割―民国初年の特刊を中心に―」（『野草』85、2010）、同「民国初年における『戯考』の文化的位置」（『立命館文学』615、2010）を挙げることができる。これらにより、演劇を記録する媒体としての劇評、およびその書き手であるジャーナリストと演劇をめぐる環境についての研究は、端緒についたといえるだろう。

しかし、上記の先行研究はいずれも文字媒体の専論であり、新聞･雑誌の編集に携わり、自ら記事を執筆する傍ら、演劇にも参与したジャーナリストの活動とその影響を明らかにした研究はいまだ多くはない。実際には、彼らの活動は、文学に限らず演劇・映画など、上海の娯楽文化の多方面にわたっている。さらに文言（文語）･白話（口語）の文体を駆使して文章を書くことで、言文一致にいたる前の過渡期的なリテラシーを持つ広範な読者に対し、その芸術受容や審美基準を誘導する役割を果たしていた。そこで本研究では、彼らを上海の娯楽文化を牽引した一群と位置づけ、その文化圏と活動の実態を明らかにすることを目指した。

（2）これまでの研究成果との関連

申請者は、中華民国初期の上海における劇評を調査する過程で、孫玉声（1864～1940）･王鈍根（1888～1951）といった『申報』、『大世界報』、『礼拜六』などの新聞･雑誌の編集に携わっていたジャーナリストが、伝統的な中国演劇観を持つ書き手とは異なる、以下の点に数多く言及しているという現象を発見した。

①中華民国期以降、京劇が洋式劇場で上演され、新式舞台装置を使用すること。

②清末から中華民国初期にかけての、女優劇の流行。

新式舞台装置の使用･女優の登場とは、いずれも二十世紀初頭の上海において流行した、視覚的な刺激を追求する風潮と関わりがある。これらは伝統的規範の遵守を尊ぶ北方の劇評家からは批判される傾向にあったが、上海では絶大な人気を博した。

同時期の上海において発言力を持っていたジャーナリストが、いずれも上記の点について多くの言説を残していることからは、上海に独自の審美基準が形成された背景に、演劇とジャーナリズムの相互連関が機能していた可能性が考えられる。上述した上海の演劇に見られる視覚への傾倒は、新聞･雑誌といった新興メディアの言説を通して、観客／読者に広く受け入れられる審美基準となり得たのではないだろうか。

そこで、これらのジャーナリストの手による新聞･雑誌記事に着目し、文字テクストのみならず、その紙面構成･編集方針･発行部数･読者層、また彼らが実際に手がけた演劇･映画や執筆した脚本に着目した研究を行い、同時期のジャーナリストの文化的活動を多方面から浮かび上がらせることを目指した。また、上海における演劇とジャーナリズムの関係が、北京の演劇と新聞・雑誌メディアにいかなる影響を及ぼしたのかについても、研究の必要があると考え、本研究に着手した。

２．研究の目的

（1）概要

本研究は、中華民国期の上海における演劇とジャーナリズムとの相互連関性について考察するものである。とくに、1910 年代から 30 年代にかけての、新聞･雑誌編集者の演劇への参与の実態を調査、分析した。

調査は主に同時期の新聞･雑誌記事を対象とし、国内外の研究機関とも連携をはかり、三年にわたって行った。二十世紀中国演劇に普遍的に見られる、西欧のモダニティの受容とそのローカライズという現象を、上海に出現したタブロイド紙･映画･洋式劇場･遊戯場といった新興のメディアや娯楽文化とも関連づけて考察し、その北京への影響についても明らかにすることを目的としている。

（2）研究の意義と特色

本研究の学術的な特色は、中華民国期のジャーナリズムを研究対象とする点にある。従来の中国文学･演劇研究において、新聞･雑誌の劇評は当時の上演記録として多用されながらも、その読者層や劇評が及ぼした影響が主たる研究対象となることは少なかった。本研究では、上海の娯楽文化圏におけるジャーナリストの活動を立体的にとらえることにより、彼らが劇評を通じて発信した新たな審美基準や、彼らによって構築された演劇とメディアとの関係について、その詳細を明らかにすることを目指した。

新聞･雑誌といった新たなメディアが登場し、それらに関わる人脈が互いに交じり合う状況を呈していた同時期の上海という場において、従来からあった演劇と、新興のメディアとの相互影響関係がいかなるものであり、その結果演劇のいかなる部分が変質し、また変質しなかったのかを考察することは、二十世紀中国演劇史、および上海の社会史や都市文化史にも、新たな研究の視点を提供することのできる課題である。

また、演劇に見いだされた新たな審美基準が、近代都市上海の共通認識として普及していく過程を詳らかにすることは、文学･演劇研究の枠内にとどまらない、社会学･歴史学の分野ともつながりうる新たな研究の視野

を提示する独創性を持つ。「ジャーナリスト」という職業自体がこの時期に新たに出現したものであり、彼らが演劇・映画・美術などの芸術ジャンルを跨いで活動した点にこそ、その本質性を見出そうとする本研究の視点は、未だ研究手法が確立しているとは言い難い演劇を主題に設定するからこそ可能な、学際的な実験性を持つ研究課題である。

３．研究の方法

本研究では、平成 23 年度から 25 年度にかけて、中華民国期の上海および北京で発行された新聞・雑誌に掲載された劇評を、網羅的に調査した。

調査の成果は年度ごとに論文として発表し、その過程で国内外の同領域における主要な学会・研究会で学術発表を行った。

年度ごとの研究方法は以下の通りである。

（1）平成 23 年度
①中華民国期上海・北京における新聞・雑誌記事の調査。
②国家図書館・中央研究院（台湾）における資料調査。
③京劇史研究会、2011 年度第二回日中伝統芸能研究交流会「都市のメディア空間と伝統芸能」（大阪市立大学）などにおける研究成果報告。
「京劇史研究会」とは、西日本を拠点として同領域の研究を行う研究者によって構成されており、科学研究費補助金・基盤研究(C)「新中国建国前後における伝統劇の多角的研究」（課題番号 18520273）などにおいて一定の研究成果の蓄積を持つ。研究代表者田村は、上記研究課題に研究協力者として参加している。

（2）平成 24 年度
①平成 23 年度調査成果にもとづき論文執筆。
②上海図書館（中国）における資料調査。
③国家図書館・中央研究院（台湾）における資料調査。
④京劇史研究会、「越境するイメージ―メディアにうつる中国」・「近現代戦の表象比較研究　戦争のメモリー・スケープ」（いずれも北海道大学）などにおける研究成果報告。

（3）平成 25 年度
①平成 23-24 年度調査成果にもとづき論文執筆。
②「梅蘭芳与京劇的伝播　第五届京劇学国際学術研討会」（中国戯曲学院）における研究成果報告。
③「名古屋シンポジウム　分裂の物語・分裂する物語」（愛知大学）における研究成果報告。
④国家図書館・中央研究院（台湾）における資料調査。
⑤「衆聲喧「華」：華語文學的想像共同體國際學術研討會」における研究成果報告（台大福華国際文教会館）。
⑥「新生代二十世紀中国文学研究工作坊」における研究成果報告（北京大学）。

４．研究成果

本研究の成果は、雑誌論文および学会発表の形式で公表している。

（1）研究の主な成果
まず、平成 25 年度に発表した雑誌論文「「孤島」時期上海跨劇種的互動關係—兩種《明末遺恨》及「改良」之口號」において、上海が「孤島」と称された 1937 年 11 月から 1941 年 12 月にかけての演劇をめぐる状況を、新聞・雑誌の報道から明らかにした。

当該論文の特色は、従来研究が集中していた同時期の話劇のみならず、京劇や文明戯、また申曲や越劇といったジャンルの演劇にも目を向け、 それらが「抗戦期上海」という同じ時空間に共存していた、との視点に立った点にある。戦争を背景とした京劇と話劇の相互の影響関係、およびその中でジャーナリストが果たした役割について分析した。

同時期に「抗戦期演劇」を牽引する存在であった左翼系知識人、および各劇種の愛好者でもあったジャーナリストら文化的知識人は、それぞれ演劇に対し「改良」のスローガンを唱え、新聞・雑誌上に意見を表明することで、劇種間の接触を促した。その一方で、「改良」という新たな評価軸の導入によって、同時期の各劇種間、および同一劇種内には、境界もまた作り出されたと結論づけた。

（2）国内外における位置づけとインパクト
上掲の雑誌論文「「孤島」時期上海跨劇種的互動關係―兩種《明末遺恨》及「改良」之口號」は、台湾・台北芸術大学の発行する演劇研究分野の査読誌『戯劇學刊』に掲載され、中華民国期の上海における演劇をジャーナリズムとの相互連関性に着目し、分析する本研究の方法は、中華圏の学界においても評価を得たと考えられる。

また、平成 24 年度に発表した雑誌論文「『順天時報』と劇評家辻聴花初探」、およびその続編として中国・中国戯曲学院の学会において論文提出の形式で発表した「一九一五年北京的坤劇与劇評家辻聴花」は、中華民国期の日本人劇評家辻聴花のジャーナリストとしての活動、および北京の演劇界への影響を論じたものである。辻聴花については、辻が中国語で執筆した著書が 2011 年に中国で再版されるなど、近年再評価の動きが見られる。日本国内所蔵資料および日本語文献を活用した本研究の成果は、従来の辻聴花研究に対し、中華民国期のジャーナリズムと演劇の相互連関、およびその上海から北京への伝播といった論点を示すことにより、新たな可能性を提起することができた。

（3）今後の展望

今後は、本研究の成果として発表した雑誌論文を包括する課題として、平成 25 年度に台湾において学会発表した「梅蘭芳訪日公演對日本戯劇人的影響：以福地信世為例」、また中国において学会発表した「二十世紀京劇的記憶与紀録」を論文としてまとめ、公表する予定である。

両報告は、「舞台の上演を記録することは可能か」という観点から、二十世紀に発展した舞台上演を記録することのできる媒体、たとえば脚本・戯単（番付）・広告・劇評・レコード・映像などのうち、主観的記憶にもとづくがゆえに、客観性に乏しいと考えられる劇評の機能に焦点をあて、二十世紀京劇史を再考しようとしたものである。

舞台上演の特徴とはその一回性にあり、同じ演目を再演したとしても、俳優の演技・観客の反応・劇場の空間などの要素を再現することは困難である。そうした再現不可能な部分こそ、主観的記憶にもとづく劇評に反映されており、劇評に見られる記憶の累積を丹念に分析することにより、舞台上演と上演をめぐる環境について、より詳細な実態を読み解くことが可能になると考えられる。

本研究において行ってきた新聞・雑誌記事を調査・分析する作業を通し、上記のような二十世紀中国演劇研究の新たな方法と視点を提起することができた。今後は、時代区分としては本研究で十分に扱うことのできなかった 1940 年代以降、また劇場空間としては梅蘭芳の訪日公演の事例が示すように、上海・北京から海外へと伝播する演劇とジャーナリズムの相互連関性について、引き続き調査を進めてゆきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　3　件）

① 田村容子、『順天時報』と劇評家辻聴花初探、第二回日中伝統芸能研究交流会報告書都市のメディア空間と伝統芸能、査読無、2012、pp.30-54

② 田村容子、ハードボイルド的視点と女性像―穆時英の小説における〈触れる〉ことと〈眺める〉こと、野草、査読有、91、2012、pp. 47-51

③ 田村容子、「孤島」時期上海跨劇種的互動關係―兩種《明末遺恨》及「改良」之口號、戯劇學刊、査読有、19、2014、pp. 7-30

〔学会発表〕（計　7　件）

① 田村容子、『順天時報』と劇評家辻聴花初探、2011 年度第二回日中伝統芸能研究交流会「都市のメディア空間と伝統芸能」、2012 年 3 月 10 日、大阪市立大学（アプローズタワー、大阪市）

② 田村容子、京劇のなかの女性像―悪女と聖女、イメージと役柄の変遷、越境するイメージ―メディアにうつる中国、2012 年 4 月 21 日、北海道大学（札幌市）

③ 田村容子、たたかう女性像の系譜――近現代の中国演劇における戦闘少女と寡婦、近現代戦の表象比較研究　戦争のメモリー・スケープ、2012 年 7 月 15-16 日、北海道大学（札幌市）

④ 田村容子、一九一五年北京的坤劇与劇評家辻聴花（書面による発表）、梅蘭芳与京劇的伝播　第五届京劇学国際学術研討会、2013 年 5 月 17-19 日、中国戯曲学院（深圳大廈（SHENZHEN HOTEL）、中国）

⑤ 田村容子、抗戦期上海における演劇とジャーナリズムの相互連関について―ふたつの『明末遺恨』と「改良」のスローガン、名古屋シンポジウム　分裂の物語・分裂する物語、2013 年 8 月 3-4 日、愛知大学（名古屋市）

⑥ 田村容子、梅蘭芳訪日公演對日本戯劇人的影響：以福地信世為例、衆聲喧「華」：華語文學的想像共同體國際學術研討會、2013 年 12 月 18-19 日、台大福華国際文教会館（台湾）

⑦ 田村容子、二十世紀京劇的記憶与紀録、新生代二十世紀中国文学研究工作坊、2014 年 1 月 11-13 日、北京大学（中国）

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

田村　容子（TAMURA, Yoko）
福井大学・教育地域科学部・准教授
研究者番号：10434359

(2)研究分担者

(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者

(　　)

研究者番号：